

城南支部 財務診断研究会

# 英会話スクールの 財務分析

March.18.2020

高本 奈緒美



# 自己紹介

高本 奈緒美 TAKAMOTO Naomi

2018年4月登録 中小企業診断士

## □ 経歴

- ・ 総合楽器メーカーに勤務 長年同社の教室事業に従事
- ・ コンセプト教室の開発や新規出店、生徒募集の企画立案、教室運営スタッフの育成に携わる
- ・ 2015年より、同社の英語教室事業において、企画・マーケティング・コース開発などを担当
- ・ 2020年3月末で同社を退職し中小企業診断士として独立予定

□ 得意・関心分野 プロモーション、販路開拓、人材育成、ダイバーシティ

□ 出身 福岡県福岡市

□ 趣味 山歩き 写真 音楽

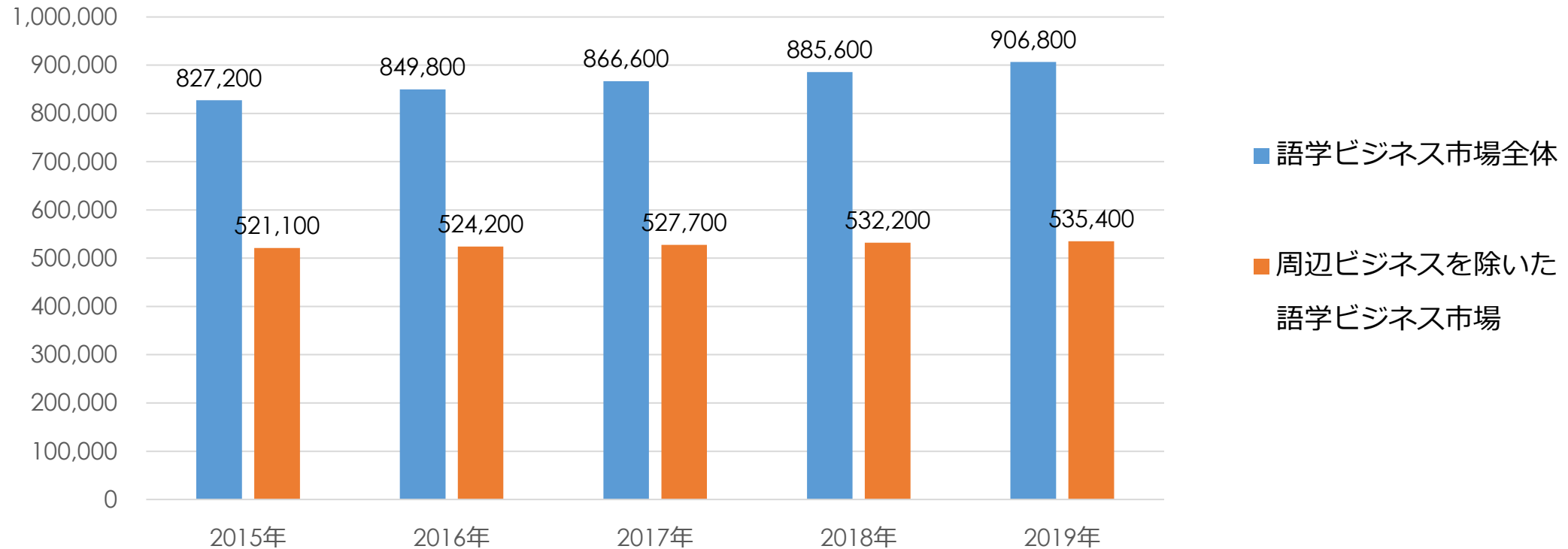
# 日本標準産業分類

	O 教育, 学習支援業	76 学校教育	761 小学校 762 中学校 763 高等学校, 中等教育学校 764 高等教育機関 765 特殊教育諸学校 766 幼稚園 767 専修学校, 各種学校
		77 その他の教育, 学習支援業	77I 社会教育 (注) 77A 公民館 77B 図書館 77C 博物館, 美術館 77D 動物園, 植物園, 水族館 77E その他の社会教育 772 職業・教育支援施設 773 学習塾 774 教養・技能教授業 (注) 77F 音楽教授業 77G 書道教授業 77H 生花・茶道教授業 77J そろばん教授業 77K 外国語会話教授業 77L スポーツ・健康教授業 (フィットネスクラブを除く) 77M フィットネスクラブ 77N その他の教養・技能教授業 779 他に分類されない教育, 学習支援業

日本標準産業分類では 細分類  
「外国語会話教授業」に含まれるが  
その95%が英語となっている。

# 語学ビジネス市場全体推移

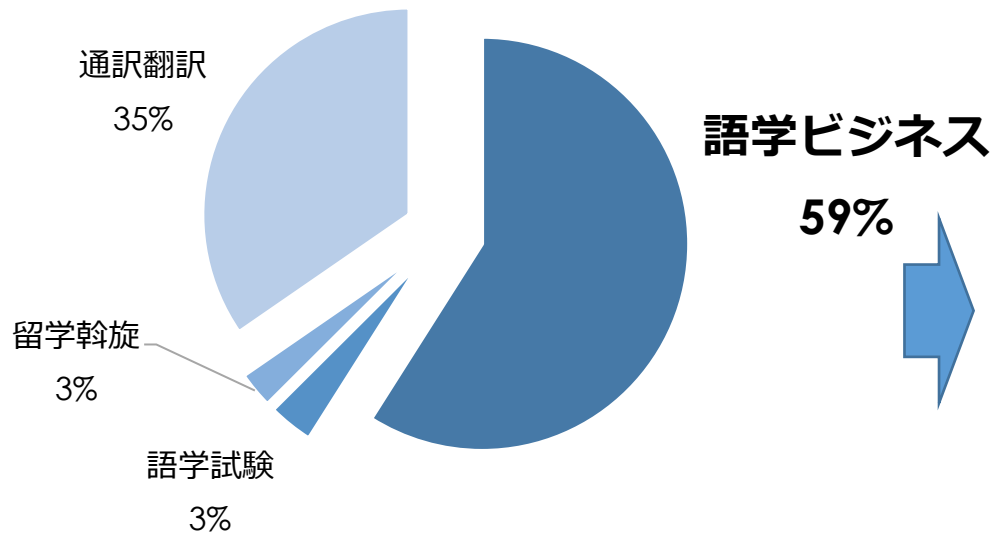
単位：百万円



2018年度語学ビジネスは、8856億円前年度の2.2%増2019年は9068億円を予測  
グローバル経済化や、訪日外国人の増加、公教育における英語教育改革などを背景に  
市場では、英語学習ニーズが拡大している。

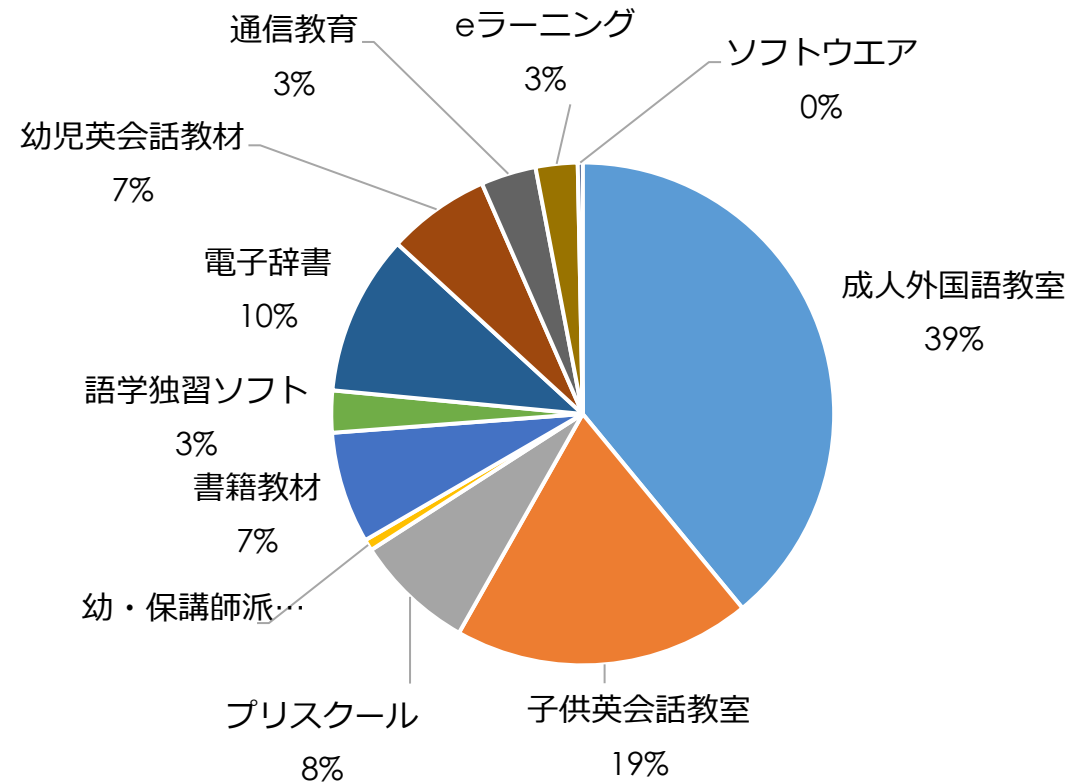
# 語学ビジネスの各分野別シェア

語学ビジネス（周辺ビジネス含む）8,856億円






語学ビジネスにおける各分野別のシェアでは、成人向け外国語教室の割合が大きい。子供向けは英会話教室、プリスクール、英会話教材を合すると34%とな理、年代に関わらず増加している。

語学ビジネス市場 5,322億円



# 市場成長

市場成長性	成人向け	子ども向け
	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人短期集中研修</li> <li>マンツーマンレッスン</li> <li>eラーニング</li> <li>翻訳・通訳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語学試験</li> <li>留学斡旋</li> <li>プリスクール</li> <li>学習参考書</li> <li>学生向け通信教育</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネス英会話教室</li> <li>ラジオ、TV英会話講座教材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園、保育園向け講師派遣</li> <li>幼児向け英会話教材</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味カルチャー英会話</li> <li>社会人向け通信教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格対策教材</li> <li>幼児、子ども英会話教室</li> </ul>

**成人向け市場：**企業内研修よりも、自己啓発を支援する動きに変わりつつある。世代によって学校での英語教育に違いがあり、一定の英語力を備えている若手社員が増えている事が挙げられる。また、グローバル化の進展により、実践的な会話力を身につける必要性が高まっている。

**子ども向け市場：**英語教育改革を背景に、8割以上の幼稚園で何らかの外国語体験が導入されており、安価で手軽さを求める傾向が高まっている。一方でプリスクールなど、幼いうちから高価格でも英語の環境に置くことを重視する傾向もあり、二極化している。

# 主要事業者の概況

	ECC	イーオン	ベルリッツ	NOVA
2018年度売上高	42,000百万円	26,358百万円	11,000百万円	10,379百万円
国内スクール数	184校（外語学院） +16,628校（ECCジュニア）	250校	60校	587校 FC 110校
生徒数	41万人 うちJr 33,8万人	7,3万人 成人47千人 子ども26千人	3,2万人	9万人
創業	1962年	1973年	1980年（日本法人） ※1878年米国	2003年
所在地	大阪市	岡山市 （現在は東京都）	東京都	東京都
特徴	国内最大手 直営会場のECC外語学院は立地のいい場所に出店し、フランチャイズのECCジュニア（個人宅）で市場深耕を図っている。子どもから学生、大人と幅広い。外語学院は日本人とネイティブ講師。他に専門学校、留学斡旋、オンラインレッスン等も展開	日本人と外国人講師。石原さとみをイメージキャラクターに採用し、受講生も同年代同性が多。傘下にアミティ、松香フォニックス、留学ジャーナル。2018年KDDIの傘下に入る。オンラインレッスン	ネイティブによるレッスン。8割がビジネス英会話。教材は全世界共通 法人契約は国内だけでも4800社、企業向けの研修に強い。2001年にベネッセHDの完全子会社。2018年は43億の赤字。海外市場のリストラ	2007年に破綻した旧株式会社NOVAの事業を引き継ぎ2013年にNOVAホールディングスに社名変更 レッスン支払い方法を月謝制に変えたものの「駅前留学」など旧NOVAの低価格戦略を踏襲。講師はネイティブとノンネイティブ（フィリピン人）

# 成人英会話スクールシェア

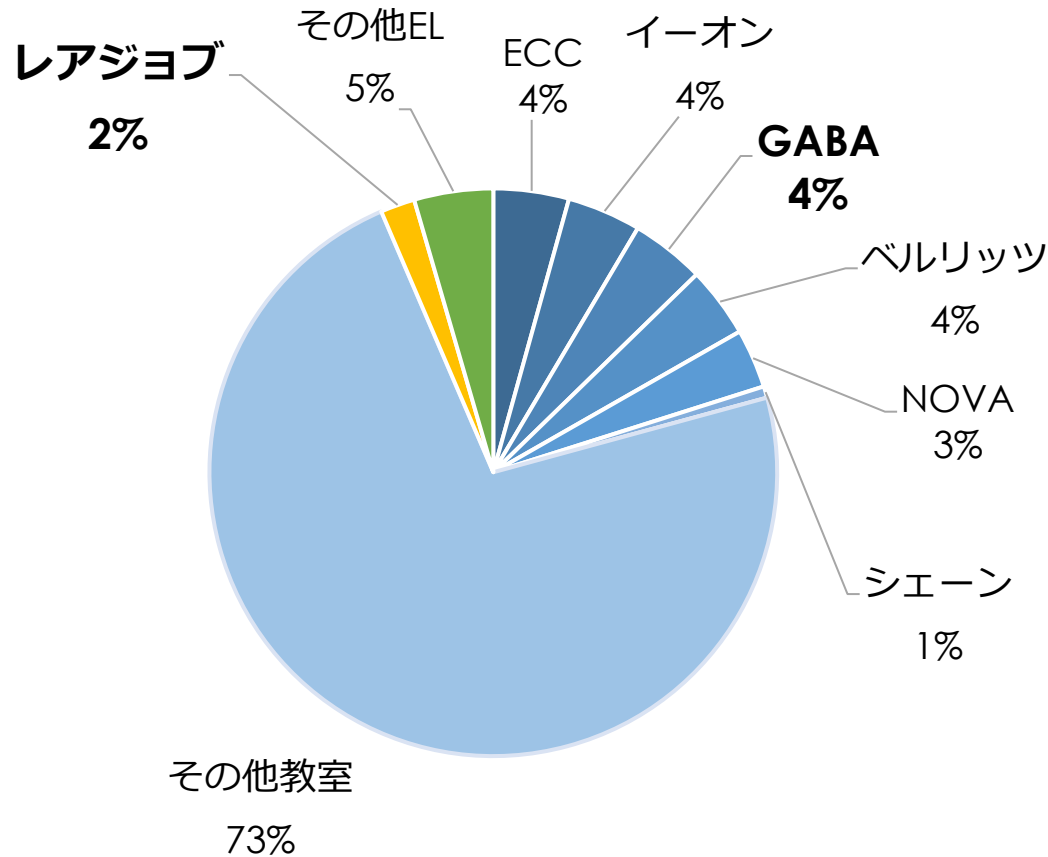
成人向け英会話市場に、eラーニング市場を加えたものを、成人英会話スクール全体とみてシェアを算出

## その他の教室について

英会話スクールは参入障壁が低い事もあり、カルチャーセンターを含む様々な教室が増えている。

また、在日外国人の増加により個人宅でのプライベートレッスンなども増えている。

成人向け英会話市場3545億円  
にeラーニング市場145億円を加えた成人英会話市場を100とする





# Gaba

2019年度売上高	11,084百万円	資本金	4億9000万円
国内スクール数	50校 ※旧COCO塾を含む	従業員数	634名
生徒数	2万人 うち、社会人が80%	所在地	東京都新宿区
講師数	1000名	創業	1997年

## 沿革

- 1997年 吉野秀樹が東京大学在学中の1995年、資本金30万円で自宅の1室からGABAを創業する。
- 2000年「GABA マンツーマン英会話」事業を開始。英会話のプライベートレッスンに特化し、事業展開も首都圏のみに集中。2004年には25校を展開するまでに事業を拡大する。
- 2006年 東京証券取引所マザーズ市場上場。
- 2009年 法人向けに講師派遣型サービスの販売を開始
- 2011年 ニチイ学館の完全子会社となる。同時に上場を廃止
- 2017年 親会社のニチイ学館が運営するcoco塾とのブランド統合を発表。2018年から順次、大人向けサービスを「Gabaマンツーマン英会話」子ども向けサービスを「coco塾ジュニア」に統一
- 2019年 ニチイ学館 coco塾直営173会場を全閉鎖 子ども英会話より撤退 大人をGabaで統一

# Gaba

## 特徴

### B to C

- 2000年当初から、「マンツーマン英会話」を謳い、事業を英会話のプライベートレッスンに特化  
格安なチケット制グループレッスンが主流となる中で、独自の立ち位置を築いてきた。
- LS（ラーニングスタジオ）は、カフェのような広い開放的な空間で、丸みを帯びた机で横並びで座る  
スタイルをとっている。スクールでは教室の稼働効率が重要になるが、調整する必要がない。
- 高単価だが、ビジネスで即戦力を求めるニーズに対応し、当初は首都圏に集中して出店。以降全国に拠  
点を展開する際も、ビジネス街か、駅利用者が多い立地へ進出している。
- ビジネス需要を狙い、当初から朝活（早朝7時からのレッスン）を展開。

### B to B

- 累計法人契約は2600社 法人向けにはグループレッスンも展開している。海外赴任前の短期集中レッス  
ンなども需要が多い。また企業内研修後のフォローアップとしてマンツーマンレッスンを継続している  
と考えられる。

レッスン料： ポイント制 レギュラープラン 45回（6ヶ月以内）351,450円（1レッスン7100円）  
講師： 教えるスキルを重要視しているため、必ずしもネイティブである必要はないとの考え。  
様々な業界でビジネス経験を積んでいるネイティブ以外のアジア圏、ヨーロッパ、日本人  
のバイリンガルも在籍している。

# レアジョブ

2019年度売上高	3,640百万円	資本金	5億6577万円
国内スクール数	—	従業員数	657名 提出会社は118名
生徒数	登録数 70万人超	所在地	東京都渋谷区
講師数	5,000名（フィリピン）	創業	2007年

## 沿革

2007年設立。Skypeを利用したオンライン英会話サービスを開始  
開成中高の同級生だった中村学（代表取締役社長）と加藤智久（前代表）が中心となり設立したベンチャー企業

2011年 - KDDI株式会社と業務提携

2013年 - 受講可能時間帯を毎日朝6時から深夜1時までに拡大

2014年 - 東京証券取引所マザーズ上場。英会話アプリ開発

2015年 - 三井物産株式会社と資本業務提携。ビジネス英会話を開始

2016年 - フィリピン共和国カガヤン・デ・オロに「Envision Philippines, Inc.」を設立

2017年 - 法人向け「レアジョブ英会話留学」提供開始

2018年 - フィリピン共和国マカティ市に「GOLA English Tutorial, Inc」設立

2019年 - 株式会社エンビジョンを設立（株式会社増進会ホールディングスとの合併契約締結）

Geos Language Centre Pte Ltd.（シンガポールGEOS社）を完全子会社化

# レアジョブ

## 特徴

- 国内最大級のオンライン英会話サービス。講師の国籍は全てフィリピンで自宅もしくはフィリピンの子会社のレッスン供給センターを通じて提供している。フィリピンでは公用語として英語を使用している。
- 一般的に教養のあるフィリピン人の英語はほとんどネイティブと変わらないことや、アメリカ英語がベースになっているため日本人には聞き取りやすいことから語学学習で注目されている。
- Skype、または独自のシステム受講システムを使用。インターネットを利用することで通信費がかからないこと、フィリピンとの物価の差（おおよそ1/3）から売上原価を低く抑え、低価格で提供できることが強みとなっている。
- 朝6時から深夜1時まで対応。語学は学習時間数に比例すると言われる中で、毎日25分のコースなど効果が出しやすいカリキュラムとなっている。

## 展開コース

- 2009年より法人向けサービスを開始。福利厚生としての利用企業も多い。日常英会話より高いビジネスコース、中高生コースなども展開。

レッスン料（月額）：日常英会話コース 毎日25分 5,800円 ビジネス英会話 毎日25分 9,800円  
講師：国立フィリピン大学の学生またはその卒業生が中心 世界ランク72位  
ビジネス英会話を担当する講師は、別途認定制度を導入している

# 財務分析企業について

- 財務諸表の分析では、英会話スクールから「Gaba」を、e-ラーニング市場から「レアジョブ」を取り上げた。
- Gabaは現在ニチイ学館の完全子会社となり上場を廃止。独立した財務諸表の入手が困難なため、2008年～2010年までの3年間を抽出した。Gabaについては英会話業界の動向と合わせて、事業構造の分析の視点で、レアジョブは、新たな英会話ビジネスの形態として検証したい。
- 2020年3月現在、語学スクールに特化した企業で上場している企業が存在せず、e-learningのレアジョブのみとなっている。
- 別添の財務諸表及び分析資料は、有価証券報告書記載の内訳等より拾い出し記載している。

- Gaba近年の業績

COCO塾との再編により売り上げは増加  
LSの統廃合を実施

	2017年	2018年	2019年
売上高	10,662	10,154	11,084
当期純利益	996	651	4
総資産	13,836	14,774	15,366
負債	7,921	8,606	9,456
純資産	5,915	6,168	5,910

単位：百万円

売上高は矢野経済研究所、その他はGaba公式HPより

## その他の補足事項

- 英会話スクール業界では、2007年の「NOVA」破綻により、英語学習者数が半数に減少するなど、業界に大きな波紋を投げかけた。破綻前には、レッスン予約が取れないことや、前払いチケットの返金に対する消費者生活センターへのクレームなどが相次ぐ。破綻により多くの会員が前払いしたレッスン費用がもどって来なかったことから、英会話スクール=悪徳・不透明のイメージが蔓延し、他の英会話スクールも大きな打撃を受けている。以降、月謝制へ移行するスクールや、前受金の運用管理の透明性を開示する企業も増えている。
- 語学ビジネス市場は、2007年以降、再編や他業種からの資本提携、買収が進んでいる。  
ベネッセコーポレーション（ベルリッツ、ベネッセBE-STUDIOは買収したミネルヴァを統合）  
KDDI（イーオン） ニチイ学館（Gaba、coco塾）
- アジア諸国の大学では英語で授業が行われており、必然的に高いレベルの英語力不可欠である。日本では母国語で高等教育が受けられるため、学生時に英語が不可欠とは言えなかったことが、英語を苦手とする理由の一つといわれている。